

●20 日アヴェニールの展示会

朝からのパソコン教室に大村さんの顔が見られた。いよいよメールの送受信に取り組んでくれるのではないかと思います。早く扱いに慣れてほしいものです。手紙を郵送するとかメモ紙をポストに投げ込むなどの苦労が軽減されることになる。事務局会議も紙での提案から脱却も視野に入ってきた。これまで印刷費が毎年 10 万円増加してきて、用紙とインクの使用料等が莫大な出費となっている。これがペーパーレス会議に成長すれば事務費の大きな削減になる時期が直前に迫っている。期待が膨らむ

今、里山の会で、改善すべき課題は 25 年間変わっていないのが会誌の体裁でこの間改善されたのが表紙のカラー化で、当時は経費の捻出で画期的な決断をして改善された。また印刷方法が輪転機で約 2~3 日がかかりでたくさんの印刷ミスが発生させた。製本日には 20 人の手作業で一日がかかりで京田辺中央公民館で 200 頁を並べて歩いて製本してきた。それがオルフィス印刷機の導入で一挙に改善できた。それに伴って経費は 3 倍近く 1 回発行するごとに 8 万円となり郵送費の値上がりで 10 万円となっている。しかし体裁はホッチキス止めで進歩していない。くるみ製本への改善は 25 年間の念願である。これが行える手ごろな機会はないものかと期待を持って、いつも展示会に臨んできた。定価 50 万円で売り出されていた製本機が一冊の製本に 50 円の経費で製本時間は 1 分間で一冊ができあがるらしい。ランニングコストがアップするが魅力的な製本機であった。ちなみに植物のハンドブック「木津川の草花たち」は製本費が 250 円でした。

●京都商工会議所へ「京の七夕」の竹笹納入について申し入れを行った

7 月下旬から始まって 8 月 10 日までに終わる取り組みで、入札が行われ、京都市内の商店街に笹つきの竹 3~5m の笹 などと注文が来て落札して届けることになっている。京田辺から鴨川の上流部御園橋商店街まで届けに行かなければならない、時間と運賃が高くつくので、それほど効果が考えられない取組みとなっている。こうした点を考慮して落札を考えてもらいたいこと、そして数量も 2~5 本くらいはできるだけまとめて注文いただきたいという声を届けておきました。また 3m などという笹など、どんなに考えてもそんなものは手に入らないのに、それが繰り返されています。こんな場合納入業者は竹と言わないで笹と説明して一本一本竹を切り倒して注文の長さにして竹を届けているがこれまでクレームはありませんでした。笹と竹の単価が違うのに注文者に竹を切り出して、笹と言って届けている。正確に理解されて注文や入札を行っていただきたいと申し入れおきました。

●21 日京都自然観察指導員研修会 精華町自然公園 伊藤さん出席

植物関係の責任者の伊藤千恵子さんが出席いただきました。少し寒いぐらいの気温でした。多くの皆さんがお越しになって、今、里山の会はイタセンパラが生息できるかどうかのところにさしかかっていますので、ワンドの掃き出しを計画しているのですが、ある方から現在の溜まっている水の DNA を調べれば生息の有無の分析が出来るという技術があると聞いたと連絡がありました。4 月に予定しているワンドの大掛かりの調査はについて再検討すべきではないかと思います。特に 4 月は多くの生き物が活発に活動を開始する時期でもあるので、水の排出は不適當かもしれませんね。

●琵琶湖・淀川流域圏連係交流会 役員会 議題の一つに新型コロナウイルス対策について検討がされました。国交省直結の団体ではない自主的な組織であること、しかし国交省に近いところで活動を展開していることを勘案しても河川レンジャーのように方針をともに受けなくてもということになり、さくらであいう館での対応はマスクの着用をお願いすることそして消毒液を備えることで実行することに落ち着きました。しかし一般来客者は、これだけ人込みを避けることを強調されると考えているほど期待できないのではないかという意見もありました。

●22 日摂南大学石田研究室 木津川の生き物調査 タイリクバラタナゴとイシガイの殻発見

22 日は午前 10 時ごろに摂南 13 人京都大学 3 人里山の会 7 人その他関係者が 5 人全員集合し、堤防側の三

カ所の池の調査にでかけました。それぞれが胴長靴を装着して捕獲網をもって、まず下流の池から調査を開始しました。そして中の池へ移り捕獲できた生き物をバケツに入れ、調査が進みました。最上流の最も小さな池は比較的浅くて水面にはゴミがかなり浮かんでいました。水も澄んでいるわけでもかなり濁っていました。集めたバケツの中に三匹ほどのタイリクバラタナゴが見つかりました。今回の生き物調査ではこのワンドにイタセンパラに近いタナゴ類が発見されたことは、大変な成果なのです。そして、産卵出来るイシガイの貝殻も同時に発見出来ました。大きな調査結果の成果になります。残念ながらタイリクバラタナゴは比較的汚れている場所でも生息できる種類だそうです。イタセンパラはもう少しきれいな水質を好むとのことでした。それでもイタセンパラの生息が不可能ではなく条件が多く整っているらしいと判断できたことは期待通りでもありました。そしてこれまでの懸念されていた密漁対策のためには周囲にある高い柳をはじめ、ヨシ群落の除去を行って密漁者が容易に発見されるよう障害物の取り除きを進めることに集中すべきであることがさらに明らかになりました。それにしても 22 日の午後から激しい降雨が見舞いましたが、皆さん雨合羽を用意されていて、夕方 5 時過ぎまでご奮闘いただきました。

翌日 23 日京都大学 2 人摂南大学は 11 人里山の会 7 人が協力見学をさせていただきました。この日は中聖牛の効果が発揮され砂洲の中に中聖牛の横部分や周囲に小さな水溜りが出来ており、一部は本川との連結が増水した折にできるようです。この部分の調査と本川地域数か所の調査になりました。ご参集いただいた皆さんは昨日の疲労もなく元気に広い河原を歩き回り調査を繰り返していただきました。昨日とは打って変わり晴天で気持ちの良い青空が広がりました。粘り強く頑張ってくださいました。ご苦労様でした。

●24 日第 2 回目の炭焼体験着火

今年炭焼き体験の試行の 2 回目を実行しました。排煙状態や焚口の火力調整に気を配りながら焚口の火力を調整しました。前回とは違って、焚口の火力を無理強いすることなく燃えるにまかせて薪を追加することにしました。焚口の火力が少し弱いのかなあと感じましたが、約 10 時間炊き続けると煙突からは勢いよく排煙がされました。それでも窯の温度はなかなか上がらず 50 度に届きませんでした。周囲の刈草や畑や畦の除草した草の燃やし等整理整頓を並行しながら薪の投入をしました。窯の表面温度が 55 度近くに上がったのが 19 時だったので焚口を閉め通気調整の可能な鉄管を使用して前回より厚く土砂を塗りこみました。空気の吸いこみに配慮しました。26 日朝の排煙温度は 66℃に上がっていました。排煙量は前回よりは少なく勢いは弱い印象と見ました。原木の種類などによって変化しているのだと思います。出来上がりが楽しみです。

●24 日木津川 3 つの池の現状撮影を実施

密漁対策の最も効果が上がるのは誰もが密漁者を発見できるように、障害物のない至極見通しの良い風景を作り上げることだといわれています。今各地の獣被害が話題になっていますが食べ物関係が大きいのですが、人が里山の手入れを広くしなくなったことなど関係しているとされています。密漁も同じように隠れる場所がないようにする、どこからでも不審者を発見できるようにしておくことではないかと思います。イタセンパラ復活のためにはこの教訓をしっかり生かした準備を進める事でしょう。里山の会はどのように環境を整えればよいのかを現場検討会を行います。5 月 22・23 日に予定しています。終日の行動となるようですので、ぜひ多くの皆さんのご協力をお願いします。

●第 24 回自然と環境講演会 3 月 7 日(土)を新型コロナウイルスの関係で中止とします。

皆様にはずいぶんとご期待をしておりましたが、ここ 1~2 週間が終息への正念場だと国を挙げての取組となっております。私たち里山の会は 26 日事務局会議で検討した結果、やむなく中止と決定いたしました。中川先生には大変ご多忙の中ご都合をつけていただきましたが、世間のこのような状況で申し訳ない事態となりました。講演会の開催日については後日改めて連絡いたします。

会員各位には次回の講演会までお楽しみを残しておきましょう。